

保護者の方向け 吃音についてのお話 Part 3

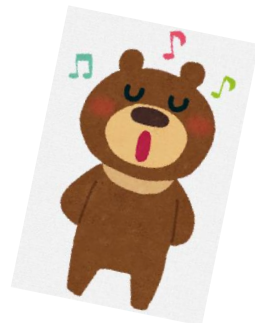
吃音の言語症状は『連発』『伸発』『難発』があります（詳しくは『保護者の方向け 吃音についてのお話 1 症状と原因』をご参照ください）。

個人差はありますが、今回はそれらの吃音症状が出難いといわれている場面や方法の一部をご紹介します。

吃音症状が出難い場面や方法

①歌をうたう

歌をうたう場面ではつかえることが少ないといわれています。



②斉読をする（二人以上で文などを読み上げる）

1人で音読をするとつかえる時でも、誰かと声を合わせて読むとつかえることが少ないといわれています。



③メトロノームに合わせて話す

メトロノームの音を聞きながら話をする、つかえることが少ないといわれています。



学校生活の中で、本読みや発表を苦手とするお子様もいます。そのような時に、1人では話し難くても、2人で声を合わせると言い易くなるということがあります（上記②の方法です）。発表や日直の号令なども同じ方法で吃音症状が出難くなることがあります。詳しくは「保護者の方向け 吃音のお話 4」をご覧ください。

支援して欲しい場面や困っている場面はお子様によって違ってくるため、画一的な対応ではなく、お子様が望む支援方法を実施していく必要があります。

【参考文献】

菊池良和（2015）『吃音のことがよくわかる本』講談社